

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ 一番街		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2 相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“私たちは、利用者、家族との繋がり、地域との連携を大切に、笑顔あふれる居場所を作ります”という目標を掲げ業務にあたっています。利用者御家族様との信頼関係を深める為に、毎月の手紙や電話での近況報告をはじめ、行事への参加のご案内をしたりして、モモとの距離を近いものにして頂ける様心がけています。また、ご家族様との繋がりを大切にする事で、利用者様が安心してモモで生活出来る様思いをくみ取り、ケアに繋がる様にしています。そして食事に関しては、法人内の栄養士が作成した献立を参考にしながら、職員が利用者様と相談し希望のメニューを取り入れ、また、事業所の畑で採れた季節の野菜を使った手作りの食事を提供しています。さらに環境面においては、昨年度から法人内で5s活動に取り組んでおり、掃除を徹底し、清潔感ある空間で利用者様が気持ちよく生活して頂ける様努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を向かえた小規模併設のグループホームであり、昨年4月に1ユニット増床し新しいスタートとなった。利用者・職員の増加も落ち着き理念に添ったケアを実践している。特に強く感じたのは理念の中の「つながり」というフレーズを大切にしているという点である。「利用者」と「家族のつながり」「事業所」と「地域のつながり」「利用者」と「社会とのつながり」など様々なつながりがあるが、特に家族とのつながりは強く毎月全ての利用者家族が面会に訪れる。職員は面会に訪れる家族に利用者の状況を報告したり、疑問点を質問するなど、共に利用者理解を深めよりよいケアとなるよう取り組んでいる。地域における交流連携も年々広がっており、今後も利用者が地域において安心して過ごす事ができるようつながりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 !該当するものに○印	項目	取り組みの成果 !該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、グループホームの理念を具体的な行動計画として、平成22年12月に作成したものを今年度も引き続きホールに掲示し職員間で共有し、職員会議や研修などで振り返りの機会を持ち実践につなげている。	職員はケアの振り返りとして理念を意識し、役割を認識している。地域との連携を大切に安心して暮らせるよう取り組んでいる。職員にも理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛け、地域住民と挨拶を交わしたり、地域で開催される行事に参加したり、施設で開催する夏祭り等では、婦人会から出店の協力をしてくださったりして、交流している。また、園児との交流も行っている。	地域の情報を得ながら積極的に関わっている。地域の秋祭りでは、神輿が事業所に来所し、交流が定例化している。地域との交流は年々深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の人材が地域のにこにこ給食の集まりへ出かけ、介護予防等についてのお話をさせてもらっている。その他、認知症に関する講演等が現在行っていない状況であるが、今後要請があれば行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所内において開催し、意見を参考にして行事等おこなったり、サービスの質の向上に繋げる様にしている。	定期的に行われている。議題も多く、出された意見等はサービス提供に活かしている。地域の方や行政と情報交換する場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の方に運営推進会議のメンバーになって頂き、サービスの実情や取組等理解して頂く等、協力関係を構築している。	地域密着部会に参加したり、担当者から助言やアドバイスを受けることもある。運営推進会議では行事のお知らせなど事業所の現状を知ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が中心となり、早期発見や予防、対策などを周知すると共に、職員の意識調査などにより、よりよいケアの実現に向けた取り組みを実践している。そして、特に転倒リスクの高い利用者や帰宅願望の強い利用者に対しては見守りを重視して援助を行っている。	年に1回は必ず施設内研修を実施し、権利擁護の外部研修にも毎年職員が参加し学ぶ機会を作っている。チェックリストで職員のケアの振り返りの時間も設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会が中心となり、園内外での研修やマニュアルの配布、また、身体的虐待のみならず、言葉などによる虐待等危険性が見逃されない様注意を払っている。また、権利擁護研修等外部の研修に参加し、職員が学び、気付ける機会が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見制度を实际利用されている利用者もおられる為、外部研修や園内研修を通して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的な面談の機会を持ち、不安や疑問点について十分説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際は積極的に声掛けをし、意見や要望を聞くよう努めている。また、面会が難しい家族には電話や手紙で近況報告をするとともに、意見をもらえるような声掛けをしている。	月に一度以上家族の訪問があり、会話の中から家族の思いをくみ取り業務に反映させている。家族との会話を大切に、なんでも言ってもらえる関係づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各事業所での会議、全体会議を設け職員の意見や提案を聞き、代表者会議にて意見を報告し反映させている。	管理者やリーダーになんでも言い安い関係にあり、毎月開くミーティングの中では意見交換が活発になされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告制度及び勤務状況表を法人全体の取り組みとして導入。代表者が確認でき、就業環境の整備に反映できるシステムを構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標や研修希望をアンケート調査し、外部、内部研修計画を策定。職員の質の向上および事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村で行われる各種部会への参加や外部研修を通じて他施設の職員との交流等行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞く時間を持つことを心がけ、利用者の気持ちに共感し、接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の言葉に耳を傾け思いを受け止める様に努めている。しっかり意見を聞き、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からしっかり話を聞きながら、思いをくみ取り、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力に応じて声を掛け一緒に作業をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に気軽に面会に来て頂ける機会を作り、利用者に関わりを持つ時間を作る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族との外出、外泊などは自由に行って頂いている。また、職員との外出などで希望があれば、入居前の住居周辺に出掛けたりしている。	昔から利用している美容院や商店など家族の協力を得ながら支援している。馴染みの方の来所が多く、自由に面会が行える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が食卓を囲めるようにしたり、日々のレクや行事等で利用者同士の交流が図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされる方については相談や支援に努めたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に話しを聞き、思いや暮らし方の希望、意向の把握にしっかり努めている。困難な方については、表情などから心の声を聞きとれる様努めている。	言葉での意思疎通が難しい利用者はその日その日の思いを行動から読み取り支援している。意向の把握が難しい利用者はセンター方式を使用し利用者理解を深めている。	利用者の意向の把握には力を入れており、今後は把握した思いが多く具体化されるような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からしっかり話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人一人をしっかり見つめることで出来る事、心身状態の把握をするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族としっかり話し合い意見を伺う様になっている。また、ミーティングなどで職員同士意見を出しあい変化などあれば見直しを新たな介護計画を作成している。	職員で利用者の情報を共有・見直しをして家族の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは個別記録に記載し、申し送りノートで職員間の情報共有している。そちらを元に、必要に応じて実践や介護計画の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を常に取り入れ、柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所などの定期的な巡回により安全面での協力をして頂いている。また、町や自治会、近隣との協力体制ができており、地域での支援が図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞きながら受診を行っている。また、2週間に1度の協力医往診時に状態の報告をしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を主治医としている。協力医の往診が月2回あるが、その他の受診は家族同行または職員同行で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況変化時には看護師に連絡・相談をし、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者やご家族と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と共に話し合い、意向に応じて事業所でできる事を支援するように努めている。	契約時に重度化した場合について対応・指針について話をしている。重度化した場合は本人・家族の思いを汲み取り話し合い、方向性を見当していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置などについての研修を行い、全職員に伝達を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、緊急時に対応できるように徹底している。また、地域の方々にも運営推進会議を通し、協力要請を行っている。	年2回避難訓練を実施し、地域の消防団員に事業所内を見学してもらい、有事の際に備えている。毎月日常的な避難訓練(避難経路の確認)を事業所独自として行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレへ入る際、本人に確認をとるようになっている。また、年長者としての敬意を忘れないように努め、言葉遣いに気をつけている。	会話の中における言葉遣いや、耳元でゆっくり声をかけるなど気遣いが接し方に現れている。権利擁護アンケートを実施し、職員は振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを大切に、自己決定しやすいよう声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活スタイルを大切にしながら関わっている。また、ご本人が自己決定しやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族や職員と一緒に馴染みの美容院へ出かけて頂いている。また、美容院の方に施設へ来て頂き、散髪をして頂くこともある。衣類はご本人に服を選んで頂いたり、職員と一緒に選んでもらい、好みの服が着られるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好調査を行い献立に取り入れたりする。また、野菜の下ごしらえ、お盆拭き等の片づけを出来る範囲で参加して頂けるように努めている。	利用者との会話の中から献立を考え食事を作成している。食欲が落ちた時には代替食を用意し、本人が食べられるよう工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェックし、利用者の状態を把握している。刻み食等個人に合った食事形態も取り入れ提供している。また、定期的に水分摂取を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂けるように支援している。また、義歯の方には夜間、義歯洗浄剤などを利用して清潔に保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員がしっかり把握したうえで、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄をして頂ける様に行っている。	日中はトイレでの排泄支援を行っている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導することで、4名の利用者がおむつに頼らず生活出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて管理し、ヨーグルトや冷たい牛乳を摂って頂いたり、食後のトイレ誘導の習慣づけ等でなるべく下剤に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意思を優先し、柔軟な対応を心がけている。	午後からの入浴が多いが希望によっては午前中に入浴や夕方入浴にも対応している。本人のペースを尊重し入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が自己決定しやすいように努めている。また、ソファや畳スペースで休息がとりやすい場所を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてはケースファイルに薬情報を添付し、変更などがあれば引き継ぎ簿などで留意事項を伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人を職員がしっかり把握し、その人にあった役割(掃除、調理、洗濯)をお願いし、一緒にすることで毎日の生活に張りを持って頂ける様にしている。また、ドライブや外食などで気分転換も出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のその日の希望があれば近い所には散歩等、遠方には後日検討にて希望に沿う様努力している。また、家族にも協力をお願いし、外出出来る様支援している。	近くにある畑を目指して散歩に出たり、テラスへ出たの外気浴は毎日のように行っている。墓参りや買い物など個々の希望は家族と話し合い支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理させて頂いているが、買い物希望などご本人の意思に合わせてその都度対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば、その都度、支援するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品や花を飾っている。共有の空間については、利用者さんが心地よく過ごして頂ける様掃除等、徹底し清潔を保っている。	法人の5S(生理・整頓・清掃・清潔・しつけ)運動により清潔に保たれ、居心地よく過ごせるよう温度や換気にも配慮されている。壁飾りや野花で季節が感じられるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が食卓を囲んだり、また、ソファーや畳スペースにて思い思い過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に協力してもらい、今まで使っておられた家具などを持ってきていただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	家族と話し合いながら居室作りをし、利用者ごとの個性が出る部屋となっている。居室によっては職員手作りの品が飾られ工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を継続して頂くために、必要個所に目印をつけ個々の状態に応じた支援を行っている。		